

米国南部の伝統食で冠動脈性心疾患のリスクが上昇

各種の食事パターンと冠動脈性心疾患の発症リスクとの関連について、地理的・人種的な違いを考慮し検討した。

45歳以上の白人および黒人の男女 17,418 人の食事データを収集し、食事パターンを調べた。その結果、コンビニエンス（パスタ料理やメキシコ料理）パターン・米国南部パターン・野菜中心パターン・デザートを摂るスイーツパターン・アルコールおよびサラダパターンの 5 つのパターンに分類された。社会人口学的特性やライフスタイル因子、エネルギー摂取で補正したところ、南部食を多く摂取している人では急性冠動脈性心疾患のリスクが 1.56 倍（最高四分位 対 最低四分位）となった。なお、南部食には、添加脂肪、揚げもの、卵、内臓、加工肉、砂糖入り飲料が含まれていた。

今回の結果から、米国南部の伝統食は冠動脈性心疾患のリスクを高めることが示唆された。

出典：Circulation. Published online Aug 10, 2015;

pii: CIRCULATIONAHA.114.014421